

2022年5月12日

学校名 鈴鹿市立玉垣小学校
学校長名 岸原 正治

令和4年度 校内研究実施計画書

I. 学校教育目標

やさしく たのしく げんきよく きらりかがやく玉垣小

① めざす学校像

- ・教育目標が目に見える姿として現れる学校
- ・心が通い合う温もりや信頼のもと、人と人とのかかわりを築く学校
- ・教育への使命感と責任感のもと、協働と研鑽で充実した教育を推進する学校
- ・保護者・地域と連携して子どもを育む学校

② めざす子ども像

- ・自分自身を大切にし、他者の人格も尊重できる心豊かな子ども
- ・ともに伸びゆくことを目指して、励まし合い支え合う子ども
- ・心身ともに健康で、困難な事から逃げない強さをもち、目標に向かって努力する子ども
- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する子ども

③ めざす教師像

- ・常に課題意識を持ち、自ら学び続ける教師
- ・学校経営方針の具体化に向け、組織の一員（チーム）として行動する教師
- ・地域に根ざした学校として、保護者・地域とともに子どもを育てる教師

II. 研究主題

なかまと響き合い、ともに学び続ける子の育成

※1

～聴くこと・話すことを大切にした授業づくりを通して～

※2

教科・領域 国語科

III. めざす子ども像

- ①基礎学力が定着している子
- ②能動的に聴いて反応しようとする子
- ③課題に対して自分なりの考えが持てる子
- ④間違いを恐れずに、自分の考えを表現しようとする子

IV. 主題設定の理由

本校は、一昨年度までの五年間、算数科を中心に研究を深めてきた。昨年度からは、子どもたちに課題の見られた思考力・表現力・読解力等を養っていこうとする振り返りから、研究の領域を国語へ、主題を「なかまと響き合い、ともに学び続ける子の育成」と変更した。また、本校の子どもたちの弱みである思考力・表現力・読解力等を養っていくために、一年目は、すべての学習の基礎となる「聴く・話す力」に焦点を当てて研究を進めていきたいと考えた。特に、思考力・表現力については、自分の考えを伝え、なかまの考えを聴いて、さらに自分の考えを練り直すこと、つまり自分や他者との対話の繰り返しの中で、より着実に定着していけるのではないかと考えられる。読解力についても、テキストから正しく読み取る力は個人差が大きいいため、話し合い活動の中で他者の気づきに学ぶことで、より効果的に養っていけるのではないかと考えた。

二年目となる今年度も、同じ研究主題と副主題のもと、研究を深めていくことで、よりめざす子ども像に近づけるのではないかと考えた。

※1 「なかまと響き合う」とは、自分の考えのみに囚われることなく、他者の意見に耳を傾け、そのよさに気づき、自分の考えとの相違点や共通点を整理することで、自分の考えの見直しや深まり、広がりが見られることをいう。それは、自分を理解すること、他者を理解しようとすることであり、互いを尊重し、共感的な関係を築くことにつながると思う。

※2 ここでいう「聴く」とは、消極的にただ「聞いている」状態とは異なり、自ら積極的に他の意見に耳を傾け、理解しようとし、さらに自分の考えと比較・検討しながら次の行動に反映しようとする能動的な行動をいう。授業でいえば、授業者の発問や友だちの考えを聞いて、相槌を打つ、自分の考えを発表する、友だちが言いたいことの要点を再話できる、考えを見直し深め、広める、さらによりよい行動をとれるようになる、などの能動的な行動がみられることを表す。

V. 子どもたちにつけたい力

「聴くこと」に関連して

- a. 意欲 … 他者の話を聴きたい・知りたいという意欲
- b. 応答力 … 相槌を打ったり、質問に答えたりと、他者の話に応える力
- c. 理解力 … 音として聞き流すのではなく、聴いて理解する力

「話すこと」に関連して

- d. 意欲 … 自分の意見を伝えたいという意欲
- e. 表現力 … 豊かな語彙で、適切に効果的に伝える力
- f. 論理力 … 筋道立てて、自分の考えをまとめる力

※これらの力を国語の「聞く・話す」活動だけではなく、「読む」活動の中に位置づけながら養っていく。

VI. 具体的な方策 ～キーワードは、「やってきたことを大事に、意識しながら」～
 (※は「V. 子どもたちにつけたい力」との関連)

1 聴き合うことのできる授業づくり 授業づくり部

昨年度の反省と児童アンケートの結果から、今年度の授業研究は、苦手意識のある「説明的な文章」を題材にして進めることが確認されている。

【教材研究について】

- ・学年会等で、教材研究についての話し合いの場をもつ。どの時間にどんな力をどんな言語活動を通してつけていくのか、具体的な手立てを言語活動構想シートにまとめ、指導案に添付する。 ※a. b. c. d. e. f.

【学習課題の設定について】

- ・初発の感想から学習課題をつくるなど、主体的な学びが実現できるような学習課題にする。 ※a. b.
- ・自分の考えを話したくなる、お互いの意見が聴きたくなるような意見の対立や、新しい学びを生む学習課題を設定して、対話的な深い学びが実現できるような多様な考えが出し合える授業をつくる。 ※a. b. c. d. e. f.

※説明的な文章の（隠れた）学習課題の例

指導者側の学習課題（その単元での指導内容）であり、子どもには、言語活動を通じた課題（例：「じどう車ずかんをつくるために『しごと』と『つくり』のかいてあるところを見つけよう」など）を設定するとよい。

低学年	中学年	高学年
1 段落を見つけよう	7 段落のまとまりを捉えよう	15 事例の関係（並列・対比）を捉えよう
2 問いと答えの文を探そう	8 中心となる語句や文を捉えよう	16 事実と意見（具体と抽象）の関係を捉えよう
3 順序を表す言葉を探そう	9 指示語の中身や接続語を捉えよう	17 文章構成の型（尾括・頭括・双括型）を捉えよう
4 文の主語と述語を探そう	10 話題を捉えよう	18 文を要約しよう
5 理由を表す言葉を探そう	11 事例を見つけよう	19 要旨をつかもう
6 文の組立（はじめ・中・終わり）を捉えよう	12 事実と意見を見つけよう	20 文と資料を結び付けて捉えよう
	13 要点をまとめよう	21 論の展開の工夫を捉えよう
	14 小見出しをつけてみよう	

【授業の展開について】

- ・音読の時間を入れる。ただ読むのではなく、音読の前に課題を意識させるとよい。文章を正確に読むことにつながる。 ※a. c. d. e. f.
- ・発問を練り、一度で聴かせ考えさせる。何度も言い直しをしない。 ※a. b. c.
- ・必ず文章（資料等を含む）に立ち返る。想像やイメージだけで話し合いを進めない。 ※c. e. f.

- ・辞書をすぐ引けるようにしておく。言葉の正確な意味を知り、語彙を増やし、日常の中で使えるようにしていく。 ※e. f.
- ・ワークシートなどの書く活動を取り入れ、一人ひとりが考えを持てるような支援を行う。 ※d. e. f.
- ・ペア学習やグループでの話し合い活動など、少人数での話し合いを採り入れる。 ※a. b. c. d. e. f.
- ・ふり返りの時間を作る。何が分かったのか、考えが深まった（広まった）ところはどこかなど、学習感想を書かせてもよいし、時間がなければ、授業者が口頭でまとめてもよい。一時間で何を学んだのか意識づけをしていく。 ※a. b. c. d. e. f.
- ・並行読書を取り入れ、意欲的に読めるようにする。同じ筆者、同じジャンルなど本文と関連のある本についても同時に読ませていく。廊下に読書コーナーを設けるなど、すすんで手に取れるような提示の仕方を考えていく。 ※a. c. d. e.

【板書について】

- ・学習課題に始まりまとめで終わるなど、一時間の授業の流れが一目でわかるように、また視覚的に理解しやすいように工夫する。 ※c.
- ・写真や絵図などを掲示し、学習場面を視覚的にとらえられるようにする。また、ICT 機器を活用していく。 ※c.

【授業規律・環境について】

- ・自他の考えを尊重し、相手の話を聴くことができるよう、聴く（目と耳と心で聴く）ことの意義（相手を認め、その考えや思い、立場をわかろうとすることであり、仲間とつながろうとする態度につながる）を指導する。 ※a. b. c.
- ・聴く、話すときの姿勢を指導し、話し合うことのできる雰囲気をつくる。 ※a. b. d.
- ・机の配置を工夫するなど、話し合うことのできる学習環境を整える。 ※a. d.
- ・指名で返事をすることや、最後まで文章で話すことを徹底する。 ※a. b. d. e. f.
- ・「声のものさし」「話し名人」「聞き名人」「話形」の掲示を活用し、しっかりできている子を随時評価していく。 ※a. b. c. d. e. f.
- ・特に低学年では、「話形」を使って話をさせていく。高学年になるに従って、自分の言葉で前の意見とつなげて意見を言えるようにしていく。 ※d. e. f.
- ・「同じです」は使わせない。意見が同じ場合でも、自分の言葉で言い直させていく。 ※d. e. f.
- ・聴いている姿勢を明確にさせるために、また話の促進のために自然な「あいづち」の打ち方を指導する。 ※a. b. d.

2 日常的な取り組み

【スピーチや暗唱について】

※a. b. c. d. e. f.

- ・スピーチでは表現力や構成力を鍛え、暗唱では脳の活性化をねらい、さらに聴かせることをねらって行う。
- ・朝の会や帰りの会等で取り組むとよい。

【読み聴かせや読書について】

※a. b. c. d. e. f.

- ・図書などの時間を使って、聴くときの姿勢と、豊かな表現力や語彙力を身につけさせるために、担任や子どもたちが絵本などの読み聴かせを行う。
- ・朝読や読書の時間を使って、できるだけたくさんの種類の本にふれさせる。

【作文(日記)指導について】

※d. e. f.

- ・子どもたちの日常を把握し、書くことに慣れさせ、表現力を鍛えるために行う。
- ・できるだけたくさん書く機会を与える。できる範囲で教師のコメントをつける。

3 授業研究

【公開授業について】

※a. b. c. d. e. f.

- ・各学年部で、全体研究授業担当と人権授業担当を担う。指導案検討は学年部で行い、2学期末までに授業研究を終えて、3学期は課題と成果を確認していく。(Hは特別支援との兼ね合いで考えていく)
- ・例えば、学年当初の説明文の授業をクロームブック等で録画するなどし、学年会等で授業者の課題を掴み、研究授業に向けて手立てを考えていく。

4 学力向上のための取り組み

学力保障部

① 学習規律の徹底

まず、最初の一か月は、共通理解・共通指導で、学習規律を全授業で徹底する。教師は(子どもたちも)、学びの約束を暗唱する。持ち物、姿勢、立ち方、手の挙げ方、返事の仕方、下敷き、定規の使い方も徹底して指導する。

② 全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの分析と授業改善※c. e. f.

全国学力調査やみえスタディ・チェックの傾向や本校児童の実態を捉え、それを基に授業改善の方向性を明らかにする。結果を分析することで、児童の弱みを意識しながら授業改善に取り組み、学年間を横断した指導の一貫性を図る。

③ 学 viva プリントの活用

※c. e. f.

月に約2枚、家庭学習を中心に取り組む。宿題で出した場合、翌朝解説を行う。

④ 言葉を大切にし、語彙を増やす取組

※c. e. f.

低学年では、「ことばノート」づくりを試みたい。高学年では、「ことばに関する掲示板づくり」を行えるとよい。掲示板の内容は、語彙力を育てることも視野に入りたい。学習環境部とも連携する。

⑤ 保護者と連携した家庭学習の習慣化

- ・手引き：各家庭掲示用を作成し、配付する。

- ・家庭学習チェック表を，学期に一回活用する。

⑥ 自主学習の進め方を発信する。

家庭で自主学習を行う際のアイデアや，モデルノートを発信する。(HP も活用)

5 学習環境を整える

学習環境部

- ・整理整頓ができ，時間を有効に使える物理的な教室環境の整備を推進する。
- ・階段や，廊下，掲示板で出会う，わくわくする掲示やしかけを行う。
- ・主語と述語が学べる掲示を行う。

6 学校図書館・学年学級文庫・新聞紹介・読み聞かせを充実させる

図書部

- ・図書委員会から，イベント，図書館だより等を通して図書館の魅力を発信する。
- ・子ども自身が読みたい本を用意し，すき間時間に読書活動に取り組み，おすすめの本を紹介し合うなどの取り組みを推進する。
- ・大人の読み聞かせは，とても子どもの心に響くものである。教師が本を選び，定期的に読み聞かせを行うことで，本を好きな子を育てる。
- ・教師が新聞記事を選び，「世の中の動き」や「なぜ学ぶのか」ということが感じられるように，学年に応じて新聞記事の紹介をする。

7 ICT機器の活用とプログラミング教育の推進

情報部

- ・あゆみ，指導要録についてクロームブックの入力等操作に関する研修会を主催する。また，学習評価部と共に，評価の在り方に関して発信を行う。
- ・ICT機器の有効な活用法や，プログラミング教育の実践事例を紹介する。

8 体育が好きな子どもを育てる

体育部

- ・体力テストを経年実施し，運動能力の伸びを検証する。
- ・瞬発力・持久力系の指導に重点を置き，年間を通じて縄跳びを実施する。
- ・「めあて」「ふりかえり」を意識した授業を組み立てる。
- ・用具を充実・整理し，効果的な「学習の場・用具」を設営する。
- ・準備運動を簡素化し，「子どもの息が切れるくらい」十分な運動時間を確保する。

VII. 年間研究計画

日付	内容
4月19日(火)	全国学力・学習状況調査(6年)
5月16日(月)	みえスタディチェック(4年)
5月20日(金)	みえスタディチェック(5年)
5月12日(木)	全体研修会 本年度の研究計画について
7月 1日(金)	第1回 全体提案授業6年生(村林指導主事)
7月25日(月)	夏季補充学習 2日間→要検討
26日(火)	同上
夏季休業中	教材研究をすすめる。
8月	全体研修会→内容検討中
9月	授業改善を実践する。 学調分析文書を作成, 検討, 保護者に配布する。
10月25日(火)	第2回 全体提案授業3年生(村林指導主事)
11月 8日(火)	第3回 全体提案授業2年生(村林指導主事)
1月	本年度の成果と課題・振り返りアンケート集約
2月	全体研修会 来年度の校内研究について

- ※1 提案授業は, 全体研(3本), 人権研(3本全体公開)を行う。
- ※2 提案授業の指導案の書式は, 6月に提案予定。
- ※3 H, ことば, かけはしの授業を必ず一回は参観する。
- ※4 空き時間等を利用して, 全員が日常の授業を参観し合う機会を確保する。

Ⅷ. 資料

1 仲間の考えを認め合う学級集団

わからないときはわからないと素直に言える学級集団づくりをすすめる。

2 学習（授業）規律

「玉小っ子の学びの約束」

【低学年】

学力保障を図るためには、安心・安全で居心地のいい学級づくりを行うとともに、子どもたちが落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することができる環境づくりに取り組むことが必要と考える。そのためにも、学びの基盤となる学習規律を子どもたちに身に付けさせることが大切と考える。

☆おんがくが なったら すわる。	☆おんがくが なったら すわる。	玉小っ子の まなびの やくそく
☆はじめと おわりの あいさつを きちんと する。	☆はじめと おわりの あいさつを きちんと する。	
☆なまえを よべたら、「はいっ。」 と へんじを する。	☆なまえを よべたら、「はいっ。」 と へんじを する。	
☆はなし名人・ きき名人に なる。	☆はなし名人・ きき名人に なる。	
☆せきを はなれるときは、 いすを つくえの なかに いれる。	☆せきを はなれるときは、 いすを つくえの なかに いれる。	
☆ただしい しせいで かくしゅう する。	☆ただしい しせいで かくしゅう する。	

あいづち あいうえお

あ ああ、そうか！
い いいね
う うんうん うーん
え えっ？ へえ しらなかつた
お おお！すごい！

3 共通化した学習用具

落ち着いた学習環境を作ることで、子どもたちの学びが一層充実するよう、学習用具を共通化している。低学年から共通の学習用具を使用することで、どの子も授業に集中しやすくなることから、学習の効率が高まると考える。各学年によって、必要な用具が異なるので、下記のとおり最小限の用具のみを共通化している。

○ 共通化した学習用具

- (1) 鉛筆…… 5本程度（毎日削ってくる）
（キャップは必要に応じて使用する。）
- (2) 赤鉛筆…… 1本
- (3) 消しゴム… 1個
- (4) 油性ペン… 1本
- (5) 直定規…… 1本（透明 10cm～15cmのもの）
- (6) 下敷き…… 1枚
- (7) 色鉛筆…… 1 2本程度（引き出しに保管）
（低学年はクーピーも使用可）

※鉛筆のこさ

1年：2B
2年～6年：B，2B

※消しゴム

よく消えるシンプルなもので、におい付きのものは使用しない。

※下敷きを使うとノートがきれいに書けます。

○ 筆箱について

1・2年生…箱型のものを使用。
3年生以上…シンプルで使いやすいものを使用。

1, 2年生は箱型の筆箱が使いやすい。

○ ボールペン, シャープペンシル, 蛍光ペンについて

ボールペン・シャープペンシル…原則使用しません。

修正テープは使用しません。

○ その他

- ・持ち物には必ず名前を書く。
- ・上記のもの以外にも, 学年で学習用具を決める場合は, 共通理解する。

4 朝の読書

朝読のルール (中学年)

- ① 8時25分には, 自分の席に座って静かに本を読み始めよう。
- ② 朝読の10分間は立ち歩かないようにしよう。
- ③ 自分の席に座って, 一人で読もう。
- ④ 自分の学年に合った本を読もう。
※教室や図書室に置いてあるまん画の本は読んでも良いです。
※どうしても必要な時や分からない時は, 担任の先生に聞こう。
- ⑤ 自分が選んだ一冊を最後まで読もう。

5 教室環境

掲示物

話し名人, 聞き名人, 声のものさし, めあて, まとめ, ふりかえり

VII 連携

1 国際教室「かけはし」, 特別支援教育

個別の指導計画の書き方について, JSL バンドスケールについて

2 人権保障部

人権レポート研修【年2回】, 言葉や仲間を大切にする指導
千代崎中学校区公開授業

3 生活づくり部

玉垣小学校のきまり, 挨拶・掃除・給食指導,